

小学校 第2学年

A表現（1）イ、（2）イ、B鑑賞（1）ア

題材名

ことばのかたち



実践校
大垣市立赤坂小学校
授業者 胡桃澤 沙紀
実践時期 2学期
全8時間

つながりを生かす

- 「ひと」とのつながりでは、子ども同士の話し合い活動を大切にしたい。自分の表したいことを製作の前に話し合うことで、イメージを広げることができるようにした。
- 「もの」とのつながりでは、児童が自分のイメージに合う表し方を工夫できるように、クレパスだけでなく、共同絵の具のコーナーを設定した。また、学校図書館に掲示してある読書感想画を鑑賞することで、物語を絵に表す楽しさに気づけるようにした。
- 「ちから」とのつながりでは、他教科の学びとの関連を大切にしたい。国語科「お気に入りの本をしょうかいしよう」やふるさと大垣科「ふるさとの作家の絵本を読もう」でも、お気に入りの本の好きな場面を言葉や絵で紹介する活動を行ってきた。同じ話を読んでも読者によって感想や絵の表し方などが様々であったことを振り返り、自分なりの捉え方で思いのままに絵に表現できるようにした。

題材の流れ

第1・2時 見通しをもつ

教科書の作品や読書感想画などを見て、どのような場面かを話し合う。

「ミリーのすてきなぼうし」を読んで、好きな場面を思い浮かべ、表したいことをみつける。

「それぞれちがったぼうし」の記述や、挿絵の様子から、どのような帽子ができそうか話し合う。

スケッチを製作して、互いに交流する。

ポイント1

アイデアを交流することを通して、自由にイメージを広げることができるようにする。

生き物や建物、いろいろな物が帽子になって楽しいな。〇〇さんの木の帽子のアイデアにびっくりしたな。わたしも好きな物を帽子にしてみようかな。

第3～6時 製作をする

思いに合わせて工夫して絵に表す。

ポイント2

場面に登場するものや、登場人物の様子について教師と対話しながら製作することで、動きや表情などを具体的にイメージができるようにする。

大きな物が出てきてびっくりした顔を描きたいな。

お城の帽子で遊んでいる子がいると楽しい様子になるな。

ケーキのふんわりした様子を表したいから色を少しぼかしてみよう。

ポイント3

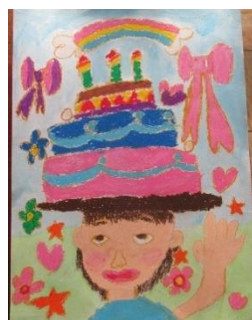
クレパスの混色や重色、ぼかしやスクラッチの方法を提示したり、共同絵の具のコーナーを設定したりして想像したことに合わせて、表し方を工夫することができるようにする。

第7・8時 仲間の作品を鑑賞する

仲間の作品を見て、面白さや楽しさ、表したいことを感じ取る。

全体を桃色の絵の具で塗ると温かい感じの絵になるな。

作品例



授業を終えて

当初は何を描いていいのかなかなか発想が広がらないという児童も多かったが、仲間同士の交流や教師との対話を通して、具体的なイメージをもって制作することができた。表したいことに合わせて、クレパスや絵の具の使い方を工夫して作品を仕上げることができた。